

# まい 埋やちよ

No. 12

千葉県八千代市  
埋蔵文化財通信  
2006.11.30  
(平成18年)

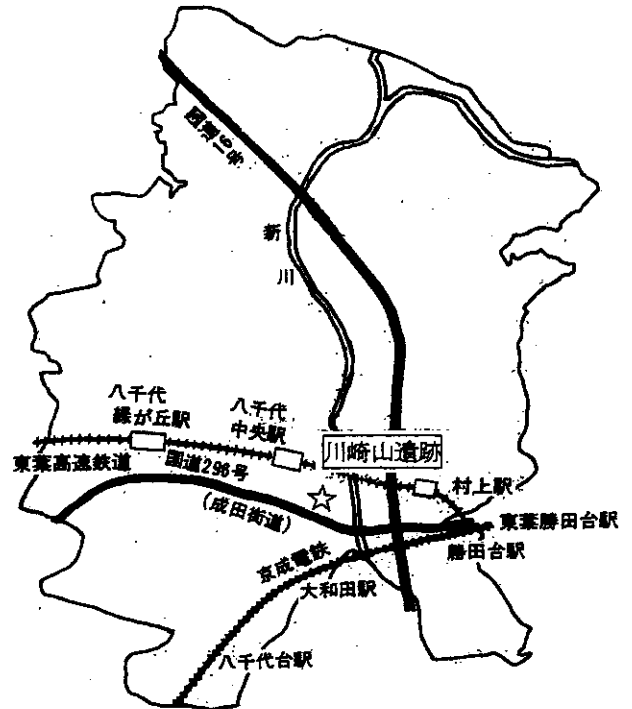
## 川崎山(かわさきやま)遺跡特集

今回は、萱田町に所在する川崎山遺跡と地点の発掘調査報告書が、刊行されたことに伴い、川崎山遺跡について紹介したいと思います。

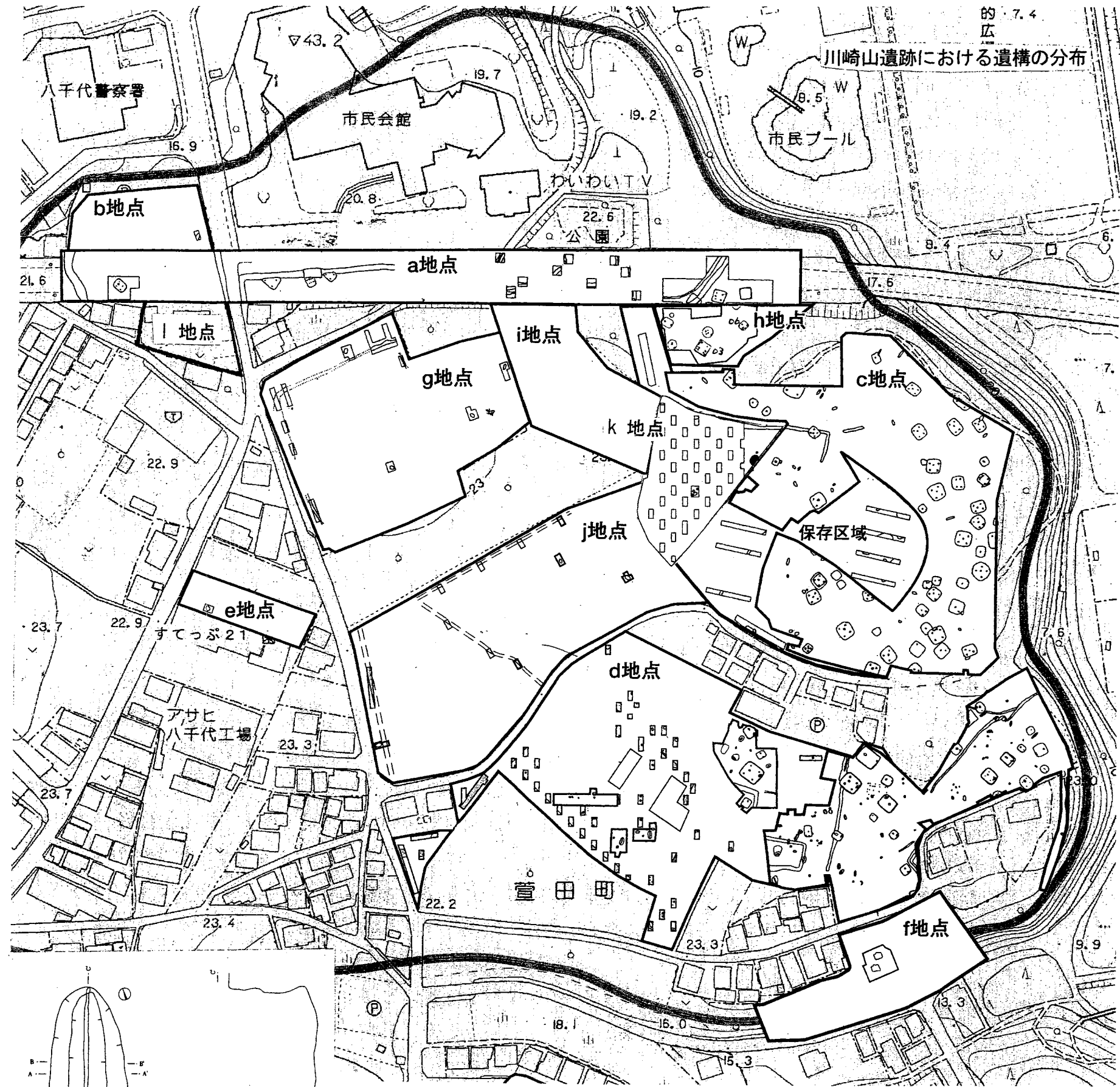
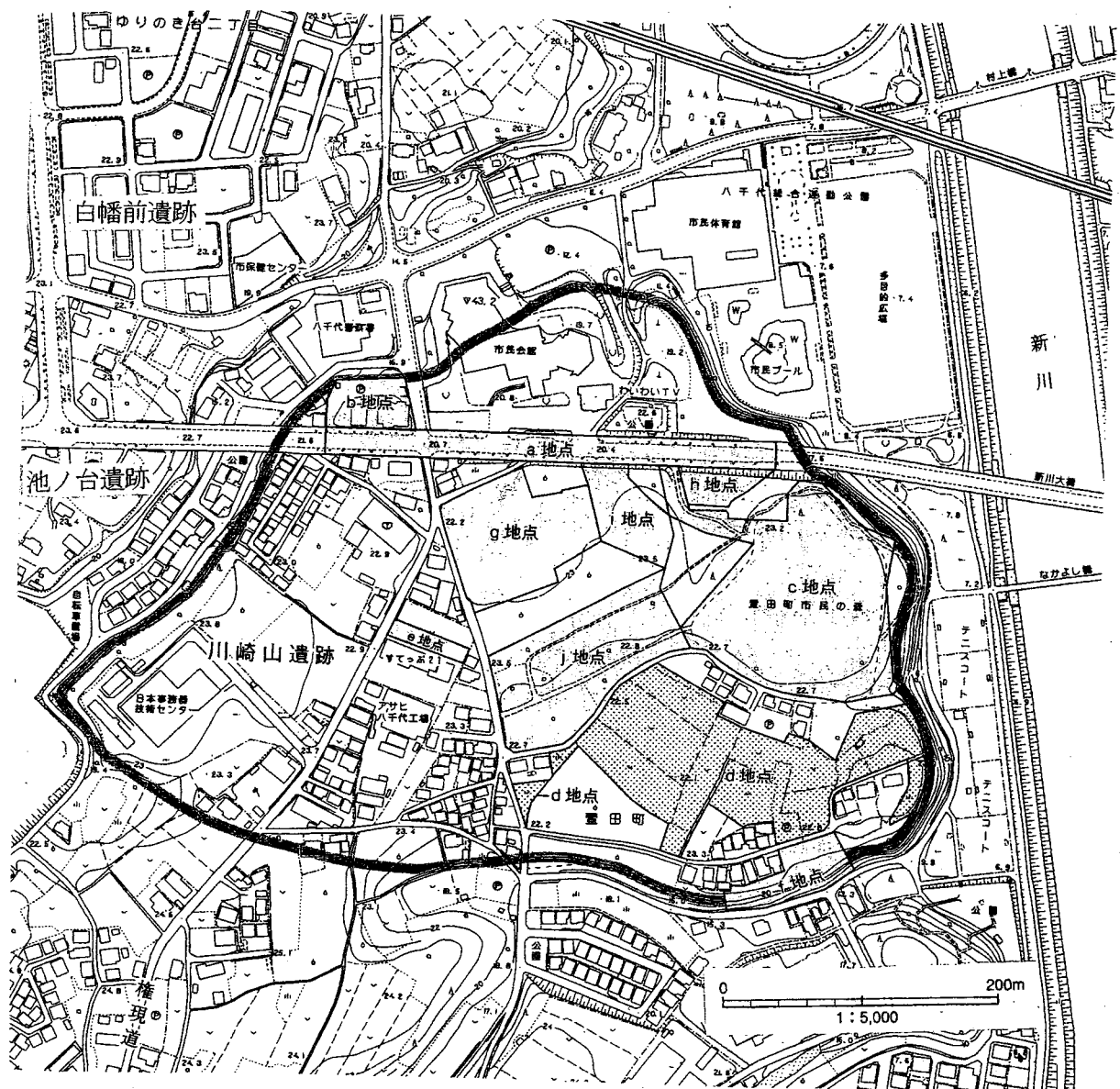
【川崎山遺跡の位置】 川崎山遺跡は、八千代市の中央部の萱田町に所在します。八千代市市民会館の前の道路を隔てた南側一帯が遺跡の範囲にあたります。遺跡の東側には新川が流れ、遺跡の西側には池ノ台遺跡、白幡前遺跡など、奈良・平安時代を中心とした遺跡が連なっています。遺跡周辺は、近年宅地化が進んだ地区で、10年ほど前までは一帯が山林と畑でしたが、現在では様子が一変しています。

【遺跡の概要】 川崎山遺跡は、旧石器時代～近世に至るまでの複合遺跡で、これまでに12ヶ所(a地点～l地点)を調査し、遺跡の東側ほぼ半分を調査したことになります。遺跡の中心となる部分はc地点とd地点で、主体となる時代は、弥生時代の後半～古墳時代の中ごろになります。この時期の竪穴住居跡が現在まで合計88軒(内、建て替え等を行った住居3軒を含む)、調査されました(次ページ図面参照)。これまでの調査成果の主だった事柄を時代順にいくつか取り上げたいと思います。

縄文時代では、けものを捕るための陥穴(おとしあな)が37基、調査されました。住居跡のような生活の痕跡ではなく狩猟の痕跡が見つかったことから、縄文時代の川崎山遺跡は狩猟のための狩場として使われていたことをうかがい知ることができます。



弥生時代後半については、竪穴住居跡が26軒、調査されました。多くの弥生土器が出土しました。川崎山遺跡の弥生土器は、八千代市を含む印旛沼周辺地域に特有の縄目模様(附加条縄文[ふかじょうじょうもん])をつけた土器と、神奈川、東京、千葉南部などで多く出土するタイプ(南関東系)の土器が混在する状態で出土しました。同じ弥生時代の遺跡でも、市内、保品地区に所在する栗谷遺跡と比較すると、栗谷遺跡で出土している櫛(くし)で模様を描く土器が出土していないことや、口の部分の輪積の痕跡をそのまま残している土器が少ないことが特徴として挙げられます。これは、栗谷遺跡と比べて、川崎山遺跡の方が弥生時代でも幾分新しいという事で、市内でも僅か数キロの差で地域差が現れていることを示しています。



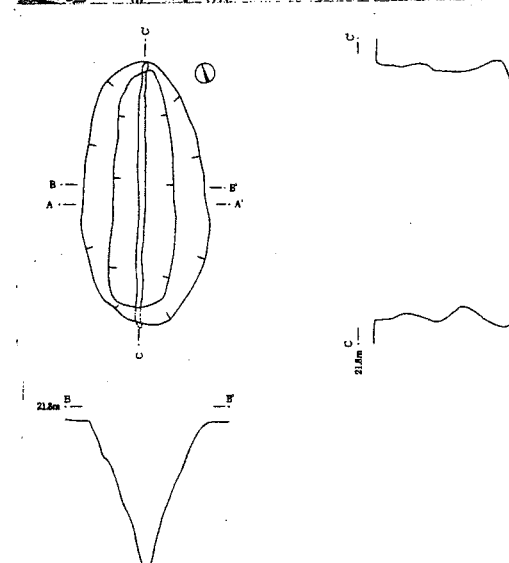
川崎山遺跡の遺構概要

|      | 縄文 (陥穴) | 弥生 | 古墳 (前期) | 古墳 (中期) | 古墳 (後期) | 奈良・平安 | 住居跡合計 |
|------|---------|----|---------|---------|---------|-------|-------|
| a 地点 | 0       | 4  | 0       | 3       | 0       | 0     | 7     |
| b 地点 | 1       | 0  | 0       | 0       | 0       | 0     | 0     |
| c 地点 | 13      | 13 | 10      | 27(3)   | 2       | 2     | 54(3) |
| d 地点 | 17      | 5  | 19      | 1       | 0       | 1     | 26    |
| e 地点 | 1       | 0  | 0       | 0       | 0       | 0     | 0     |
| f 地点 | 0       | 0  | 0       | 0       | 0       | 2     | 2     |
| g 地点 | 4       | 0  | 0       | 0       | 0       | 0     | 0     |
| h 地点 | 0       | 3  | 0       | 2       | 1       | 0     | 6     |
| i 地点 | 0       | 0  | 0       | 0       | 0       | 0     | 0     |
| j 地点 | 3       | 0  | 0       | 0       | 0       | 0     | 0     |
| k 地点 | 0       | 1  | 0       | 0       | 0       | 0     | 1     |
| l 地点 | 0       | 0  | 0       | 0       | 0       | 0     | 0     |
| 合計   | 37      | 26 | 29      | 33(3)   | 3       | 5     | 96(3) |

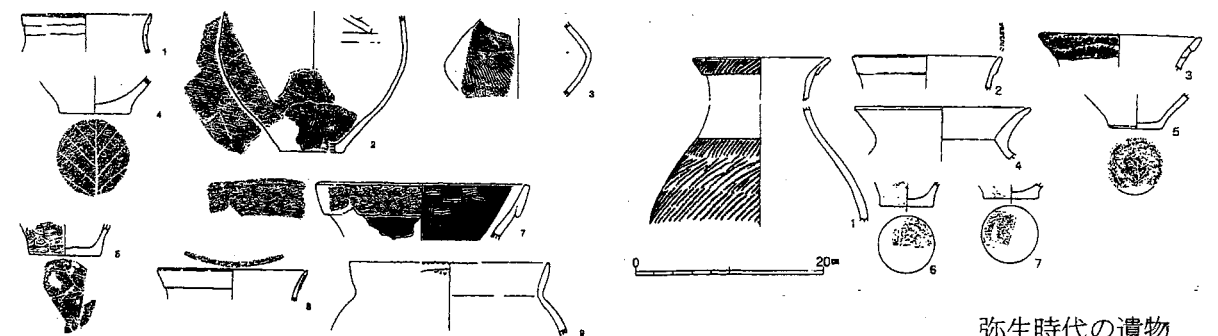
( )は重複している住居跡数



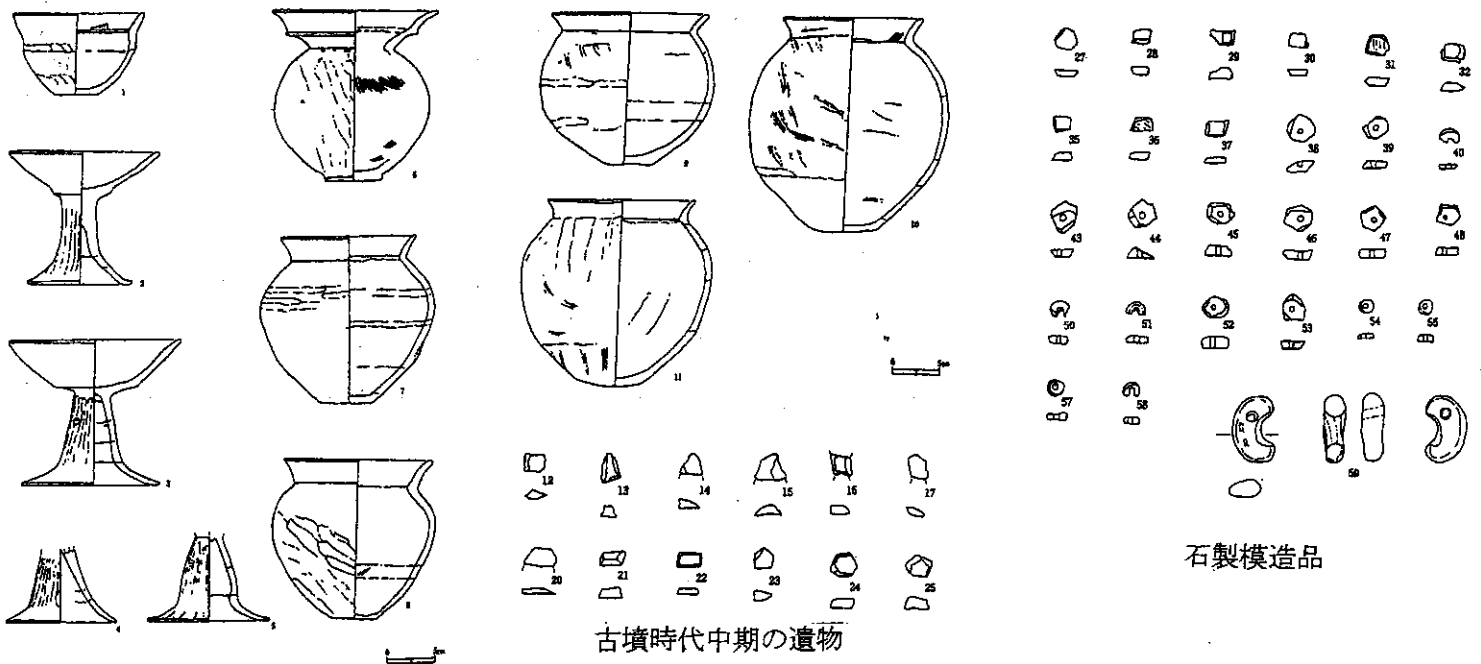
川崎山遺跡出土遺物等 旧石器時代の遺物



縄文時代の陥穴



弥生時代の遺物



古墳時代中期の遺物

石製模造品

古墳時代は、前期の住居跡が 29 軒、中期が 33 軒(内、建て替え等を行った住居 3 軒を含む)、後期が 3 軒、合計 65 軒の竪穴住居跡が調査されました。d 地点に前期の住居が多く分布し、c 地点に中期の住居が多く分布しています。また、後期になると急速に集落の規模が小さくなるなど、時代による集落の分布や展開の違いなどが明らかになってきました。

古墳時代前期の竪穴住居跡からは、鉄滓(てっさい)一鍛冶作業の際に出る鉄の屑のことが出土しました。古墳時代前期(4 世紀頃)の川崎山遺跡で既に鉄製品を作っていた住居があったこととなります。

また、古墳時代前期の住居跡の中には焼失住居と呼ばれ、火災などで焼け落ちた住居が何軒もありました。そうした住居跡から出土した炭になった木材の樹木の種類を分析したところ、クヌギが多いことが判りました。川崎山遺跡周辺の当時の森林の様子をうかがい知る手掛かりになっていくでしょう。

また、古墳時代中期の住居跡中には、石製模造品の工房跡も見つかっています。石製模造品とは、古墳時代中期に恐らくはお祭りや儀式などに使われたものと考えられているもので、剣や勾玉のミニチュアのようなものを石で作ることからそのような呼ばれています。h 地点で調査された 03 住居跡や 06 住居跡では、そうした、ミニチュア品もさることながら、製作段階の石の切りくずのようなものや半完成品のようなもの、更には製品を作るための原石となる大きな石材も出土しました。これらのことから、ミニチュア品を所有していた住居ではなく、製作に携わっていた住居であることが判りました。

以上、川崎山遺跡の特徴について何点か紹介してきました。周辺の遺跡との比較をすると、また、興味深い事例もあり、他にも紹介したいことはあるのですが、紙面の都合もありますので、今回は、これくらいにしたいと思います。(宮澤)

## 埋(まい)やちよ No.12

—千葉県八千代市埋蔵文化財通信—

平成 18 年 11 月 30 日発行

編集・発行 八千代市教育委員会

社会教育課 文化財保護班

八千代市大和田 1 3 8 - 2

☎276-0045 ☎047(481)0304

### —編集後記—

今回は、平成 18 年度もあとわずかという事で、「平成 18 年度を振り返って」と題して書きたいと思っています。